

第20話「お願いしているのに！」

課題	うまくお願いができない
ストラテジー	お願いがあることを先に伝える
効果	- 相手に、その後の話(お願い)を理解してもらいやすくなる - 聞き手は、心の準備をしながら話を聞くことができる

<課題>

うまくお願いができない



スアンは麗に、祭りの準備に必要な人手が足りないと伝えることで、祭りの準備を手伝ってくれるようお願いしたつもりでした。しかし、麗はそれが「祭りの準備を手伝ってほしい」というお願いであるとは理解しませんでした。

<ストラテジー使用場面>



スアン: あの、ちょっとお願いがあるんですが。

麗: お願い?

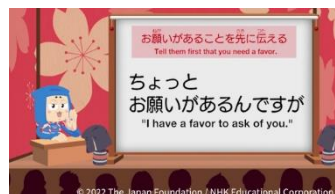
スアン: はい。私、スタッフとしてお祭りに参加します。(中略)でも、人が足りなくて…。

麗: あ、お願いって、お祭りを手伝ってほしかったのか。

スアン: はい。そうです。そうなんです！

<スアンが使ったストラテジー>

お願いがあることを先に伝える



スアンは最初に「ちょっとお願いがあるんですが」と言ってから、事情を話しました。麗は、お願いがあることを伝えられてから話を聞いたので、その話が何かのお願いにつながることを考えながらスアンの話を聞くことができました。その結果、スアンが言った「人が足りない」ということが、「人が足りないから、麗にも手伝ってほしい」というお願いだということに気づきました。

<どんなストラテジー？>

このストラテジーは、自分の話の意図を先に伝えるストラテジーです。スアンの場合は、麗にお祭りの手伝いをしてもらえようをお願いしたいという意図があったので、「ちょっとお願いがあるんですが」と言ってから、くわしい話を始めています。お願いをする方としては、先に意図を伝えて相手と話の目的を共有することで、話がスムーズに進むことが期待できます。お願いをされる方としても、これから聞く話何らかのお願いにつながるかわかるので、心の準備をして聞くことができます、話を理解しやすくなります。

<どうやって使う？>

このストラテジーは、話を始めるときに使います。話を始める前に、「ちょっとお願いがあるんですが」のように、その話の意図を伝えます。

ただし、お願いをするときはいつでもこの表現が必要だというわけではありません。お願いには、「軽いお願い」と「重いお願い」があります。家族や友人にちょっとペンを借りるなど軽いお願いのときは「そのペン、ちょっと借りてもいい(ですか)?」と直接お願いすればよく、「ちょっとお願いがあるんですが」を付けると、かえってアンバランスな印象になります。一方、スアンのお願いのように、イベントのお手伝いをしてもらえようという重いお願いの場合は、直接「お祭りのお手伝いをしてくれませんか。」という相手をおどろかせてしまいます。「ちょっとお願いがあるんですが」と言ってから始めれば、相手も心の準備ができますから、突然の重いお願いに驚かなくて済みます。

また、重いお願いをするときは、相手にそのお願いを受け入れてもらいやすくするために、お願いをするに至った事情や経緯を相手に説明したうえでお願いをする(【ストラテジー】→【事情説明】→【お願い】)、といった流れを取ることができます。

(例)

【ストラテジー】 スアン: あ、麗さん、ちょっとお願いがあるんですが。

麗: なに?

【事情説明】 スアン: 私、お祭りでイベントの設営係をやることになりました。

テントを立てたり、いすを並べたりするので、
大変なんです。でも、人が足りなくて。

麗: あー。

【お願い】 スアン: あ、お祭りの準備、手伝ってもらえませんか。

麗: あー、お祭りの日か。午後から休みだから、行けるかも。

このような流れを取ると、相手にお願いする事情や経緯を理解してもらえる反面、話が長くなり、すぐにお願いに行きつかなかったり、説明が複雑になったりする場合もあります。このストラテジーで最初にお願いがあることを伝えておけば、そのような状況になったとしても、聞き手はその説明がいつかはお願いにつながると理解して聞けますし、何ををお願いしたいのかわかりにくい場合

には、「それで、どんなお願いでしょうか。」などと確認することができます。

＜もう一歩＞ 前置き表現

今回のように、話す前に話の意図を伝えたり、話の内容に対する自分の立場や態度などを伝えたりする表現は、「前置き表現」と呼ばれています。前置き表現はお願いするときだけではなく、さまざまな場面で使えます。例えば、話の意図が「相談をすること」である場合は、「ちょっと相談したいことがあるんですが」という言い方をすれば、相手は「これから何か相談をされるんだな。」と心の準備をすることができます。また、「間違っているかもしれないんですが」と言って、そのあとに続く話に自信がないことを先に伝えておいたり、「友達から聞いた話なんですが」と言って、その話の出所が自分ではないことを先に伝えておく言い方もその一つです。「間違っているかもしれないんですが」と前置きしておけば、聞き手から話の内容についての修正を引き出しやすくなったり、間違えても（最初からその可能性を知っていたので）恥ずかしくなかったりと、前置き表現にはさまざまな効果があります。

『まるごと 日本のことばと文化 中級1 B1』(p.175)でも、前置き表現が取り上げられています。また、『日本語教師のための日常会話がグーンとアップする雑談指導のススメ』というテキストの Unit7 で前置き表現の事例がたくさん紹介されていますので、参考にしてみてください。

＜参考＞

国際交流基金(2016)『まるごと 日本のことばと文化 中級1 B1』三修社

西郷英樹・清水崇文(2018)『日本語教師のための日常会話がグーンとアップする雑談指導のススメ』凡人社